

日本旧石器学会

ニュースレター 第1号

NEWSLETTER No. 1
JAPANESE PALAEOLITHIC RESEARCH ASSOCIATION

日本旧石器学会設立総会特集号

2003年12月20日(土)、神奈川県横浜市総合福祉センター4階の講堂に全国から約160人の旧石器時代に関心を寄せる研究者たちが集まり日本旧石器学会を設立した。総会後は、福澤仁之・東京都立大学教授の記念講演「年縞堆積物からみた旧石器時代の年代と気候変動」につづき、翌21日(日)にわたりシンポジウム「後期旧石器時代のはじまりを探る」が開催された。

会長の挨拶

2000年11月に前期・中期旧石器時代資料の捏造が発覚し、その後日本考古学協会は前・中期旧石器問題調査研究特別委員会を組織して事実の究明に努めてきました。その結果、2002年5月の同協会総会において捏造のひろがりがかきわめて大きく、また時間経過も20有余年におよぶことが報告され、前期・中期旧石器時代にさかのぼる遺構・遺物は皆無であることが明らかにされました。こうして2003年5月に最終報告書が刊行され、学界としては検証の問題に一応の決着がつけられました。

本日ここにお集りの皆様方の多くは、この考古学協会特別委員会の内外で問題の究明に積極的に貢献され、あるいは協力された方がたであります。とりわけ検証作業の中心にあった特別委員会作業部会長の方々は、同委員会委員長・副委員長諸先生の督励もうけつつ、今回の問題を教訓として日本列島の旧石器時代研究をより強固なもの

とするために新しい全国学会を組織する必要を痛感されたのであります。これはこの分野の研究に携わる多くの研究者の願いでもありました。

本日ここに日本旧石器学会の設立総会を迎えることができましたのは、なによりも旧石器時代の歴史の重要性、その歴史的意義の重要性に対するわたしたちの確信であります。およそ500万年前にアフリカに現れた人類はやがて諸大陸に拡散し、各地で個性的な文化を生みだし今日の文明の基礎を築くのですが、まさにこの最初の歴史の分岐点の解明に旧石器時代研究が不可欠となるのです。日本列島においても縄文時代以後の歴史に個性的な文化の発展を見



会長の挨拶

いだすとすれば、その美しい花とたわわな果実を育んだ土壌の力の根源が旧石器時代の歴史にあること、世界と列島をつなぐ旧石器時代の歴史の豊かさにこそ思いをいたすべきでしょう。

困難な状況をバネにして新たな学会をとえば聞こえはよいのですが、現実はいかに甘いわけではありません。全国の発掘調査件数の減少傾向や調査体制の弱体化など、考古学全体を取り巻く環境はそうとうに厳しいものがあり、たんなる願望やスタンドプレーで新たな学会組織を維持していくことはできないのであります。本日の時点で会員は149名であり、まことにささやかな学会です。しかしお集まりの皆様方は日本の旧石器時代研究および旧石器時代研究と関連自然科学との連携にもっとも熱い志をおもちの方々であり、本日の設立総会において会則、運営体制、事業計画と予算を確定し、役員を選出して本会の根幹を立派に立ち上げて下さるものと願っております。

日本旧石器学会には、おおむね3つの役割が期待されていると思います。第1は、いうまでもなく日本における旧石器文化研究の推進であります。これまでの研究では北海道から九州まで約10の地域研究会が中心的な役割を果たしてきており、新しい全国学会には一面でこうした地域研究会との連携を積極的に進めることが期待されるでしょう。同時に、地域をこえた固有の全国的課題をどのように設定し具体化するかが重要です。この点においてこそ全国学会の真価が問われるといえるかもしれません。第2は、関連自然科学との連携の推進です。考古学のなかでもとりわけ旧石器時代研究は地質学・古生物学・古植生学・人

類学など自然科学との結びつきが強い分野であり、研究内容でも研究組織でも連携を強化していくことが必要でしょう。第3は、国際的な研究の連携です。今日の日本の旧石器時代研究にはとりわけ重要な課題ですが、各国の事情の違いや言葉の問題が大きいのというのも事実です。一步一步着実な連携を積み重ねていくことが大切ではないかと思えます。

以上、設立総会の開会にあたり、ここ一年ほどの間に日本旧石器学会の設立の準備にあたってこられた準備委員の皆様方と議論してきたことをわたしなりに整理して述べさせていただきます。

ともあれ本日は無事設立総会を迎えることができ、総会後には2日間にわたってシンポジウムを開催する予定となっております。後期旧石器時代の起源に関する新しい資料や見解が全国から報告され、文字通り全国組織の役割を果たそうとしているわけであります。皆様の熱心な議論で有意義なシンポジウムになることを期待いたします。

最後になりましたが、本日の会場の準備や事務的な作業にご尽力下さった準備委員会事務局長白石浩之さんその他神奈川県在住の会員の皆様方に厚くお礼もうしあげます。

(稲田孝司)

設立にいたる経過

2000年11月5日藤村新一による前・中期旧石器発掘の捏造が宮城県上高森遺跡で発覚した。日本考古学協会はただちに特別委員会を設置して、この問題に対応してきた。その結果、国指定史跡の中期旧石器

時代の所産と考えられてきた宮城県座散乱木遺跡の発掘調査時（1976年）まで遡ることが明らかになった。

この間2000年12月24日に全国旧石器研究10団体による旧石器発掘捏造問題に関する共同声明を出し、地域研究団体間での連帯・協力はもちろんのこと、旧石器研究の再構築に向けて多くの研究者が特別委員会の中に入って真相解明に積極的に寄与してきた。

こうした動きの中から、捏造事件の反省と全国的な連絡組織の必要性が認識され、

以下示すとおり経緯を経て結成に至った。

2002年5月31日 中国・韓国・ロシアの旧石器研究者による東アジア旧石器学会設立の動きがあり、韓国・中国の組織代表者から日本の研究者（松藤和人）に参加要請があった。

2002年6月8日（仮称）東アジア旧石器学会の日本側受け皿組織をつくる必要があることから、各地域旧石器研究団体の連合方式による全国学会の結成を働きかけることで意見が一致した（安蒜政雄・小野昭・白石浩之・松藤和人）。

2002年7月1日 各地域旧石器研究団体世話人に全国学会組織の呼びかけを行う。

2002年9月13日 地域研究団体の連合組織結成案については、各研究団体の設立過程が異なることや各地域研究団体において総会を経てただちに結論をまとめることが不可能なため廃案とし、個人参加方式に切り替えることを協議した。発起人として呼びかける人数について検討した。また、2002年中のスケジュールについて議論を行った（安蒜政雄・小野昭・白石浩之・

松藤和人）。

2002年11月10日 考古学協会奈良大会会場にて、稲田孝司を加えて発起人会の議事、会員の募集等について協議した（安蒜政雄・稲田孝司・白石浩之・松藤和人）。

2003年1月5日 各地域旧石器研究団体会長ならびに世話人に対して連合方式による全国組織案について正式に廃案にすることを報告した。同時に日本旧石器学会創設にかかわる発起人を全国の旧石器研究者ならびに関連諸科学の研究者49名に依頼し、了承を得る。

発起人は以下次のとおりである。

阿部祥人・安蒜政雄・稲田孝司・大竹憲昭・大沼克彦・織笠昭・伊藤健・小田静夫・小野昭・小畑弘己・菊池強一・木崎康弘・木村英明・久保弘幸・小林達雄・坂井隆・佐川正敏・佐藤宏之・佐藤良二・白石浩之・清水宗昭・鈴木次郎・鈴木忠司・渋谷孝雄・砂田佳弘・諏訪間順・竹岡俊樹・竹花和晴・堤隆・鶴丸俊明・勅使河原彰・戸田哲也・中川和哉・中村由克・西秋良宏・萩原博文・馬場悠男・比田井民子・平口哲夫・藤原妃敏・藤野次史・藤田尚・麻柄一志・松藤和人・町田洋・御堂島正・矢島國雄・山口卓也・山田晃弘

2003年3月22日 日本旧石器学会発起人会を開催した（会場：横浜市総合福祉センター、出席者：30名）。①東アジア旧石器学会の設立に向けての経緯、②日本旧石器学会会則・細則案等の説明を行った。また学会設立準備の役員として、設立準備委員会会長稲田孝司、副会長安蒜政雄・小野昭・松藤和人、事務局長白石浩之を選任した。

東アジア旧石器学会の問題については、今後の折衝における日本側の指針として



発起人会の会場風景

「東アジア旧石器学会の組織運営について」の文書が提示され、あわせてロシア、中国、韓国における東アジア旧石器学会設立にかかわる情報交換が行われた。

2003年5月24日 第1回設立準備委員会（日本大学、出席者：安蒜政雄・稲田孝司・白石浩之・松藤和人）。会員募集、資格審査委員会のあり方、設立総会の準備等について協議した。

2003年7月13日 第2回設立準備委員会（愛知学院大学、出席者：稲田孝司・白石浩之・松藤和人）。①会則・運営細則について、発起人会に提出した内容では複雑なので、分かりやすく整理した。②役員構成について意見交換を行った。③シンポジウムの統一テーマ、発表内容、担当者案について協議を行った。

2003年10月26日 第3回設立準備委員会（滋賀県立大学、出席者：安蒜政雄・稲田孝司・白石浩之・松藤和人）。①会員申し込み状況（143名）、②設立総会の議事日程（役割分担、予算案等）③シンポジウムの準備状況（予稿集の編集、会員への通知等）、④会則・運営細則（顧問の設置、会の名称等）⑤ニュースレター第1号の編集案 ⑥東アジア旧石器学会等について協議・情報交換を行った。

2003年12月20日・21日 日本旧石器学会設立総会およびシンポジウム「後期旧石器時代のはじまりを探る」を開催する（会場：横浜市総合福祉センター）。

（白石浩之）

会則および運営細則

会 則

第1条 本会は日本旧石器学会

（Japanese Palaeolithic Research Association : JPRA）

と称する。

第2条 本会は旧石器時代、先土器時代または岩宿時代と呼称される時代に関する研究の推進とその成果の普及、関連する学問分野及び日本内外の研究諸団体等との交流の促進を目的とする。

第3条 本会は次の事業を行う。

1. 研究の推進と成果の出版
2. 研究集会・国際学会・講演会等の開催
3. 会誌・ニュースレター等の発行
4. その他必要な事業

第4条 本会は、入会資格審査を経て会費を納入した会員によって組織され、会員は会誌等の配布をうけ、本会の行う事業に加わることができる。

第5条 本会は総会を年1回以上開催し、会則の制定と改廃、年度の事業・予算の決定、役員・会計監査委員・顧問の選出、その他の重要事項を審議・決定する。総会は、欠席会員の委任状を含め、全会員の5分の1以上の出席をもって成立する。

第6条 本会に役員会を置き、会務を執行する。役員会は会長1名、副会長1名、幹事20名以内で構成し、会長が主宰する。役員任期は2年とし、引き続いて3期以

上再任することはできない。役員会は総務・会計・会誌・渉外・企画・入会資格審査等の委員会を設置し、役員が分担して各委員会を主宰する。会長は、役員以外の会員を委員会委員に委嘱することができる。

第7条 本会に会計監査委員2名及び顧問若干名を置き、会員の中から選出する。任期は2年とし、引き続いて3期以上再任することはできない。第8条 本会の運営に要する費用は、会費、寄付金、補助金をもってあてる。会計年度は10月1日に始まり、9月30日に終わる。

付則

1. 会費は前納制で年額5000円とする。
2. 本会の事務所は、愛知県日進市岩崎町阿良池12、愛知学院大学文学部白石浩之研究室に置く。

運営細則

1. 本会への入会資格は、論文・研究ノート・調査報告等を公表した者とする。
2. 役員会は、委任状を含め過半数の出席をもって成立とする。
3. 役員は無報酬とする。役員等の会務執行のための旅費等の支払いについては、役員会が別に定める。

設立総会の記録

日時：2003年12月20日（土）

13時～14時50分

場所：横浜市総合福祉センター

開会

1. 議長選出
2. 設立準備委員会会長挨拶
3. 学会設立にいたる経過
4. 会則および運営細則

5. 新年度事業計画
6. 東アジア旧石器研究団体との連携
7. 新年度予算
8. 役員・会計監査委員・顧問の選出
閉会（14時50分）

総会は、渋谷孝雄会員の司会のもと、小野昭・下川達彌会員を議長に選出し進行した。

2003/2004年度事業計画と予算

1. 会組織の拡大と整備
 - a. 本会の目的を達成するには十分な組織力と財政力が必要である。とりわけ若い研究者層の入会促進が不可欠であり、当面、数百人規模の会組織をめざす。
 - b. 次期役員を選出にあたっては、できるだけ会員の総意が反映されるよう会員投票による選挙の導入等を検討する。
2. 役員会の運営方法の確立
 - a. 役員会に委員会を設け、役員会全体との協調を前提にしつつ、委員会独自の活動も発展させる。
 - b. 役員間の意志疎通は、旅費を十分確保できないので可能な限りe-mailを活用する。
3. 会誌の刊行
 - a. 学会組織としての基盤を確立するため、新年度内の会誌刊行に向けて具体策を検討する。
4. ニュースレターの刊行
 - a. 役員会および各委員会の活動状況を定期的に会員に報告するとともに会員相互の意志疎通をはかるため、ニュースレターを年2回以上発行する。
5. 国際的な研究の連携
 - a. 東アジア旧石器学会の設立またはそれにいたる過渡的な連携を展望しつつ、関

係諸国の学会と協議を進める。

b. 欧米その他地域の関連学会・研究者との連携を促進する。

6. 研究集会の企画

a. 次期総会開催時またはその他の機会にシンポジウム等の研究集会を企画する。

7. データベースの作成

a. 全国の旧石器時代遺跡のデータベース（地名および地図上の表示、表採一発掘、時期一段階、組成、遺構、文献等のリスト）を数年計画で作成する。科学研究費の申請を検討する。

2003/2004 年度予算

単位：円

収 入		
費 目	予算額	摘 要
1 会費納入		
会費収入	1,000,000	(会員 200 名) × 5,000 円
2 雑収入		
シンポジウム予稿集頒布代金	300,000	150 部 × 2,000 円 = 300,000 円
小計①	1,300,000	
支 出		
1 一般事業費		
会議費	40,000	発起人集会、設立準備委員会、役員会
交通旅費	25,000	設立準備委員会、役員会交通費の臨時補填
通信運搬費	160,000	ニュースレター送料、諸通知、設立準備委員会、役員間連絡、他
消耗品費	25,000	事務用品、コピー、他
印刷製本費	120,000	ニュースレター 2 回、他
諸謝金	50,000	臨時事務補助謝金、他
雑費	12,000	雑費
予備費	205,000	会誌発行準備、他
2 シンポジウム		
会場設営費	55,000	会場賃料、諸器具借用料、頒布会場賃料他
通信運搬費	48,000	案内状送付、発表者・設立準備委員会連絡、他
消耗品費	50,000	事務用品、コピー、他
印刷製本費	350,000	予稿集印刷
諸謝金	160,000	講演者、発表者謝金
小計②	1,300,000	
小計①-②	0	

会 員 ・ 発 起 人 名 簿

会田信行 赤羽貞幸 阿久澤智和 阿曾正彦
 麻生順司 麻生敏隆 阿部朝衛 阿部祥人
 荒井格 荒井幹夫 安蒜政雄 飯島正明
 石川恵美子 伊藤栄二 伊藤健 伊藤博祐
 稲田孝司 岩谷史記 氏家敏之 牛ノ濱修
 江本直 遠藤仁 大窪淳司 大竹憲昭
 大沼克彦 岡田登 沖憲明 奥義次 小田静夫
 小野昭 小野信彦 小畑弘己 織笠明子
 加藤有重 加藤勝仁 加藤真二 加藤博文
 門脇耕一 上敷領久 亀田直美 軽部達也

川合剛 川添和暁 川道寛 KEALLY Charles T.
 菊池強一 木崎康弘 北沢実 絹川一徳
 木村英明 切通雅子 久保弘幸 栗島義明
 栗原伸好 小杉康 小菅将夫 小嶋善邦
 小林達雄 小林広和 斎野裕彦 三枝健二
 坂井隆 酒卷孝光 坂本尚史 佐川正敏
 笹原芳郎 佐藤宏之 佐藤良二 塩塚浩一
 渋谷孝雄 清水宗昭 下岡順直 下川達彌
 下原裕司 白井太郎 白石純 白石浩之
 新東晃一 菅井進 杉山真二 杉山富雄
 鈴木次郎 鈴木忠司 須藤隆司 砂田佳弘

諏訪間順 諏訪間伸 芹澤清八 高尾好之
 高倉純 高木暢厚 高山正久 竹岡俊樹
 武田良夫 竹花和晴 竹広文明 田代治
 館野孝 立平進 谷和隆 田部剛士 千葉英一
 辻誠一郎 辻田直人 辻本崇夫 都築恵美子
 堤隆 津村宏臣 鶴丸俊明 勅使河原彰
 寺崎康史 堂込秀人 富樫泰時 戸田哲也
 戸田正勝 中川和哉 長崎治 中島誠
 長友恒人 長沼孝 長沼正樹 長野真一
 中原一成 中原正光 中村喜代重 中村真理
 中村由克 長屋幸二 中山豊 西秋良宏
 西井幸雄 西井龍儀 丹羽野裕 根田信隆
 野口淳 萩原博文 馬場悠男 比田井民子
 平井和 平口哲夫 平塚義和 平ノ内幸司
 藤田尚 藤野次史 藤原妃敏 古川知明
 保坂康夫 麻柄一志 馬籠亮道 町田洋
 松浦五輪美 松島吉信 松田典夫 松藤和人
 光石鳴巳 御堂島正 宮坂清 宮田栄二
 村木敬 村崎孝宏 村澤正弘 森格也
 矢島國雄 安井宣也 山口卓也 山崎恒哉
 山田晃弘 山田哲 山原敏朗 吉朝則富
 吉井宣子 吉川耕太郎 吉澤靖 吉田望
 渡辺丈彦

(2004年1月31日現在)

役員名簿と職務分担

会長：稲田孝司
 副会長：松藤和人
 幹事：安蒜政雄 伊藤健 大竹憲昭 小野昭
 小畑弘己 木崎康弘 木村英明 佐川正敏
 佐藤宏之 佐藤良二 渋谷孝雄 白石浩之
 砂田佳弘 諏訪間順 堤隆 長沼孝
 西秋良宏 萩原博文 比田井民子 藤野次史
 総務委員会：*白石浩之 砂田佳弘 伊藤健
 会計委員会：*比田井民子 伊藤健
 会誌委員会：*諏訪間順 木崎康弘 佐藤宏之
 ニュースレター委員会：*安蒜政雄 藤野次史
 渉外委員会：*小野昭 木村英明 松藤和人
 小畑弘己 佐川正敏
 研究企画委員会：*堤隆 佐藤良二 西秋良宏
 藤野次史
 データベース委員会：*大竹憲昭 稲田孝司

長沼孝 萩原博文 渋谷孝雄
 入会資格審査委員会：*安蒜政雄 渋谷孝雄
 小畑弘己

※は委員長

会計監査委員：鈴木次郎 藤田尚
 顧問：町田洋 小林達雄 馬場悠男

記念講演

福澤仁之「年縞堆積物からみた旧石器時代の年代と気候変動」

列島ウルム氷期末期における温暖化は、東アジア夏季モンスーンの影響でヨーロッパより先行する可能性が指摘された。

第1回シンポジウムの記録

シンポジウム

「後期旧石器時代のはじまりを探る」

第1日目 12月20日 13時～17時

開会挨拶

藤野次史「中国地方における後期旧石器時代初頭の文化」

山口卓也「近畿地方における後期旧石器時代初頭の文化」

第2日目 12月21日 9時～16時

木崎康弘「九州地方における後期旧石器時代初頭の文化」

笹原芳郎「愛鷹・箱根地域における後期旧石器時代初頭の文化」

大竹憲昭「中部・北陸地方における後期旧石器時代初頭の文化」

町田洋「後期旧石器時代編年に関して武蔵野・立川ローム層をみなおす」

諏訪間順「南関東地方における立川ローム層基底部の石器群」

吉川耕太郎「東北地方における後期旧石器時代初頭の文化」

寺崎康史「北海道地方における後期旧石器時代初頭の文化」

辻誠一郎「後期旧石器時代初頭の植生」

加藤博文「シベリアにおける後期旧石器時代初頭の文化」

加藤真二「中国における後期旧石器時代初頭の文化」

小畑弘己「朝鮮半島における後期旧石器時代初頭の文化」

討論 1 「文化の波及と自然環境」

討論 2 「後期旧石器時代初頭期の石器組成と石器製作技術」

閉会挨拶

シンポジウム全体の司会は砂田佳弘会員がつとめた。また、町田洋・辻誠一郎・加藤博文・加藤真二・小畑弘己会員が登壇した討論 1 の司会を小野昭・佐藤宏之会員が、木崎康弘・藤野次史・山口卓也・笹原芳郎・大竹憲昭・諏訪間順・吉川耕太郎・寺崎康史会員が登壇した討論 2 の司会を安蒜政雄・白石浩之会員が担当した。



討論 1



シンポジウムの会場

お知らせ

第 2 回総会

日本旧石器学会第 2 回総会は 2004 年 12 月 18 (土)・19 (日) に東京都立大学・講堂小ホール (東京都八王子市) で開催予定です。

会費納入のお願い

日本旧石器学会会員の資格を得られた方でまだ会費を納めていない方は、同封の郵便振替用紙にて会費 5,000 円を速やかに納入して下さい。振込先は、日本旧石器学会 郵便振替番号 00180 - 8 - 408055 です。

予稿集の販売

第 1 回日本旧石器学会シンポジウム「後期旧石器時代のはじまりを探る」予稿集 (A4 判 100 頁) を定価 2000 円 (送料別・書籍小包 310 円) で販売しています。ご希望の方は上記会費納入先までお申し込みください。

第 1 号は、谷和隆会員の協力を得て、設立総会の記録集という方針のもとに編集しました。

日本旧石器学会ニュースレター

第 1 号

2004 年 1 月 31 日発行

編集: 日本旧石器学会ニュースレター委員会

安蒜政雄・藤野次史

発行: 日本旧石器学会

事務局: 愛知学院大学文学部白石研究室

〒470-0195 愛知県日進市岩崎町阿良池12

電話 05617-3-1111 ~ 8 (内線 257)

E-mail hshira@dpc.aichi-gakuin.ac.jp